

白藍塾オリジナル

2021入試小論文分析&解答のヒント

2021年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・法学部

課題文は、著名な文学者・評論家の福田恒存の評論文からの抜粋。文学と政治の関係について論じたもので、一見、法学部とは関係がなさそうなので、とまどった受験生も多いだろう。だが、設問からわかるように、課題のねらいはあくまでもそこから「個人と社会」の関係のあり方について考えさせることだ。

課題文は比喻を多用した文学的な文章で、抜粋の仕方も恣意的なのでわかりにくい、あえてわかりやすく補いながらまとめると、次のようになるだろう。

「政治によって100人中99人が救われても、必ず救われない一人が残る。そうした政治の限界を知った上で、文学はつねに救われない最後の一人を救おうとしてきた。だが、政治が10人しか救えないと、人々はその最後の一人を残りの90人の中に見失い、文学が役割を果たせなくなってしまう。こうした文学と政治の対立の底には、個人と社会の対立がある。現代では、個人は社会的なものを通してしか価値を認められず、個人としての主張はエゴイズムとして批判される。だが、それは個人を社会の名のもとに抑圧することにほかならず、一人一人の内にある個人としての価値を否定するべきではない」

簡単に言うと、社会からはみ出してしまう個人のあり方を否定する現代社会の状況を批判しているわけだ。

こうした議論を要約した上で、「個人と社会の緊張と対立」について自分の考えを論じることが求められている。

様々な論じ方が可能なテーマではあるが、法学部の問題である以上、やはり人権、政治、民主主義、社会のあり方といった問題と絡めて論じるべきだろう。問題提起としては、「個人的価値と社会的価値のどちらを重視すべきか」「個人はあくまでも社会的存在として捉えられるべきか」などが正攻法だ。そうやって論じるべきテーマさえ取り出せば、あとは課題文の内容はあまり気にする必要はない。

「個人的価値を重視すべき」とする立場の場合は、例えば民主主義の理念と絡めて、個人の自由と権利をあくまで尊重すべきであることを論じるとよい。本来、民主主義とは、社会の抑圧から個人を解放するためのものでもあったので、そうしたことを踏まえて論じてもよいだろう。

「社会的価値を重視すべき」とする立場の場合は、例えば、「個人と社会を対立的に捉えて、個人を不

可侵のものにしてしまうと、市民社会は成り立たない。個人であっても社会の一員としての責任を自覚すべき」といった論じ方ができるはずだ。

文学論とか文学者の責任などを論じることが求められているわけではないので、その点はくれぐれも注意してほしい。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://hakuranjuku.co.jp>